

時の立札

戦争第四年

決戦の頂点には

大東亜戦争の必勝と

大東亜の解放がある

われらこの凱歌を確信しつゝ

悔らず 怯まず ひとに勵む

真 實 週 報

北ボルネオの西海州一帯には、米作に適する
廣闊な耕地が限りなくある。戦前は、原住民
が原始的な耕作法で僅かな收穫をあげ、あとは
放棄されてゐたが、現在ではわが本島青年
指導者の汗と努力が結實して水田はのび、二
毛作の蓬萊米が黄金の穂波をうたせてゐる。
最初はあまり協力しなかつた原住民も、いま
では現地自給を目指して奮闘してゐる。豊か
な收穫に類する原住民の笑顔。これこそ
戦争三ヶ年の大きな稔りだ。 撮影 眞實報社員



週報 實業

時の立札

戦争第四年

決戦の頂点には

大東亜戦争の必勝と

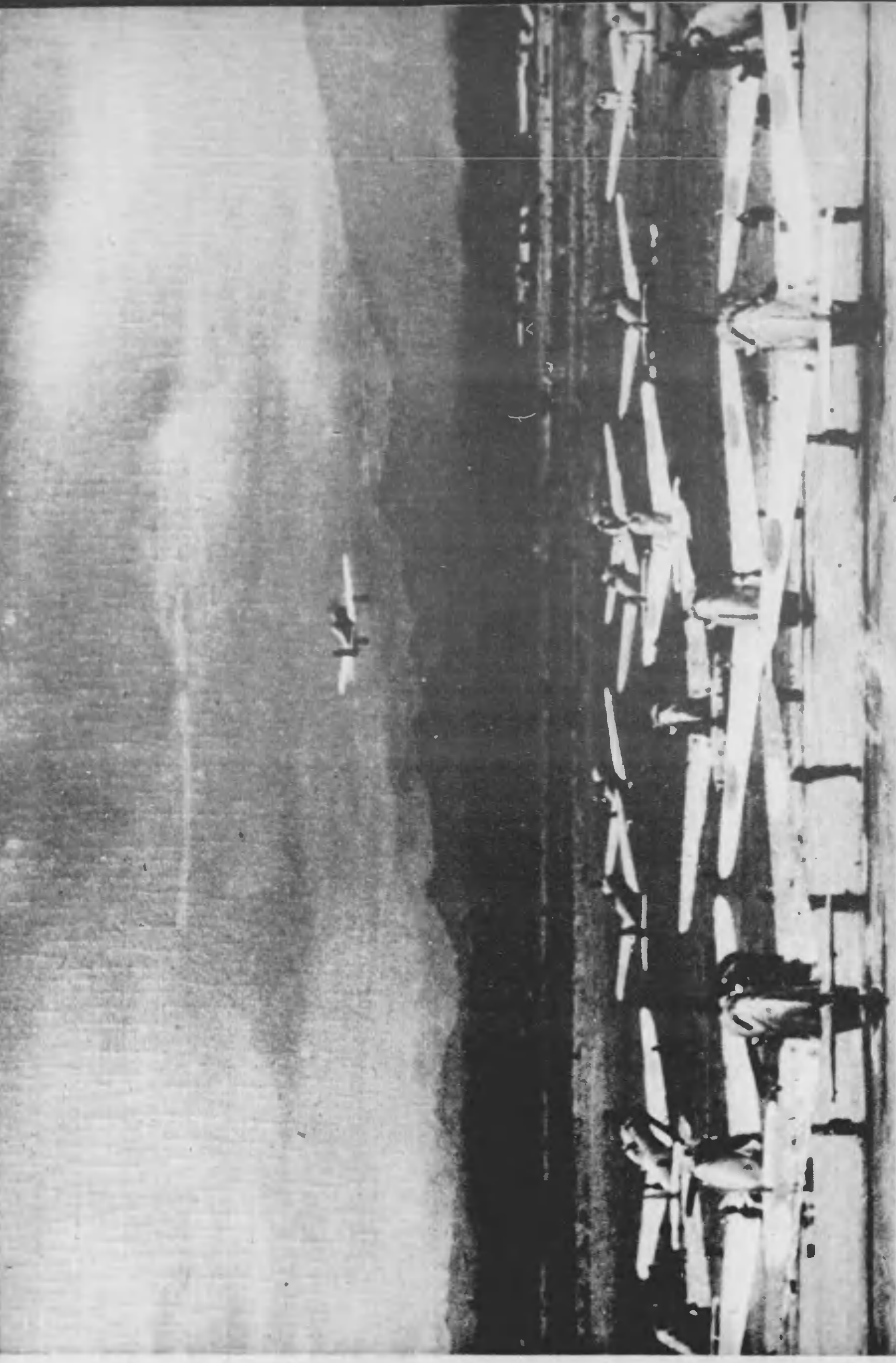
大東亜の解放がある

われらこの凱歌を確信しつゝ

侮らず 怯まず ひたに勵む

北ボルネオの西海州一帯には、米作に適する
富潤な耕地が限りなくある。戦前は、原住民
が原始的な耕作法で僅かな収穫をあげ、あと
は放置されてゐたが、現在ではわが本島青年
指導者の汗と努力が結實して水田はのび、二
毛作の蓬萊米が黄金の穂波をうたせてゐる。
最初はおもひもたせなかつた原住民も、いま
では現地自給を目指して奮闘してゐる。豊か
な収穫に類する原住民の笑顔。これこそ
戦争三年の大きな稔りだ。 掲載 養和真所員





必要物資の重要
物資を多く買ひ
よつてゆくべき
わが陸軍新
鋭機

闘敢朗明

へ迎を日八月二十年四度

大本營陸軍報道部

★ ★ ★
大東亞戦争開始以來、既に滿三ヶ年。今や比島周邊における彼我の本格的決戦まさに最高潮に達せんとしつゝあるの秋、過ぎしを顧みざるべきに備へ、以て征戦の一途に邁進せねばならない

宣戦の詔勅にも『帝國は今や存亡存亡ノ爲、驟然起つて一切ノ障礙ヲ破壊スルノ外ナキナリ』と仰せられてあるやうに、この戦争は徹米英の餘りにも非道不義な壓迫によつて開始せられたものであり、わがその存立上、萬やむを得ずして起つた絶體絶命の戦ひであつた。従つてこの敵を撃滅しない限り帝國の存立はなく、大東亞諸民族の自由獨立もあり得ない。それは勝利が然らずんば死あるのみ、の徹底的な戦ひである

★ ★ ★
思へば過去三ヶ年の間の戦局は大きな變貌を示してゐる

すなはち、開戦第一年はまづ輝かしい勝利の年であつた。われらまづ勝てり。この歡喜、この自信が、どんなにか國民の士氣を奮ひ立たせたことであらう。一億國民の胸裏にやがてわれこそ敵米英の野望を撃滅し得る光榮の民族であり、われ等こそ眞強傑傲の唯一の當事者であるとの信念が固く根を張つたのである。いはこの年は戦勝の決定的要素たる必勝の信念確立の年であつたといふべきであらう

次いで戦争第二年に入るや、わが南方占領地域の豊富な資源の戦力化が軌道に乗り始めた。國內においても着々進められてゐた生産の決戦體制化が眞実具體化した。この間、前線にあつては、わが攻勢終末點たるソロモン、ニューギニア方面將兵の奮闘、或ひはアラスカにおける山崎部隊將兵の死闘など、いづれも、戦争途上の至難な國內戰勢轉換、全局的戦力補充の前の幕の幕を捲いたのであつた。従つて第二年は戦時生産體制確立の年とみることが出来るのである

次いで第三年目に入ると戦勢はこゝに急變し、敵は『短期決戦』の方針の下、最大な消耗を厭はず、しきりに基地の推進を焦り、遂に比島上陸の強引な作戦によつて、わが國に對し本格的な決戦を挑み來つた。この間わが國內においては決戦非常措置の實施と共に、工場への学徒動員の強化、女子徴用の實施、そして徴兵年齢の低下による決戦戦力投入等、あらゆる施策を決戦戦力増強の一途に集中してきたのである

★ ★ ★
勇士達の鮮血をもつて勝はれたぞい『闘』

によつて決戦の準備を整へ、大陸の戰野に展開された無類の戦力により、在米米英軍の運動を封殺し、作戦の主動性を獲得した我が軍は、こゝに神機を揮ひ、レイテ決戦へ臨んだ。正しく三年目は決戦準備に終始した年と呼ぶことができるであらう。しかして戦ひはこれからがいよいよ本格化するものであつて、去る十一月二十四日の關東地区に對する空襲等は、その取んなる前奏曲に過ぎない。われらは現在の生活を更に切りつめ、文藝通り最低生活に徹して、より一層の奮闘を誓ふべきであらう

★ ★ ★
かの南洋の風動に躍るラベウルの將兵たちは、その四周に強大なる敵と相對し、兵器食糧を始め、あらゆる必需品の供給を斷絶されてゐるのである。その頭上には絶えず敵機の銃撃がつかまつており、地上には最早や住むべき一軒の家も残さず徹底的に破壊し盡されてゐる。困苦缺乏の生活といへばこれほど徹底した困苦缺乏の生活はないであらう。しかも、この窮乏と化した最悪の條件の中から、將兵たちは知々しくも立上つて活潑な現地生活の戦ひを闘つてゐるのである

敵軍を撃滅されるやとくに酒類を細り扱い、如何なる犠牲にも決して屈服することのない住居とし、食糧供給のためには密林を伐り拓いて農場と化し、或ひは食用動植物の採取に努め、あらゆる生活必需品はすべて將兵たちの苦心によつて生産されてゐる。既に洞窟内には兵器製造の工場まで建設され、そこには絶えざる電燈が輝き、動力機械が轟音を立ててゐるのである

最早やラベウルでは、生活必需品で生産できないものは何一つないといふ。そして、將兵たちは『五年が十年でも最後の勝利を得るまでは頭張り強く』と、満々たる自信をもつて敵國の人々の體面に盡かす犠牲を遂げてゐるのである。そこには後進の冷たさ、暗さも存在しない。すべては決死を乗り越えた明朗な國境に満ち溢れてゐるのである

まづ精神的な面よりこれをみれば、そこには戦友愛によつて將兵の心が強固に結ばれてゐることを知るのである。例へば、糧食生産隊員が直接第一線の陣りに就く將兵たちのために、或る時は自分の食糧まで提供してしまひ、或ひはまた糧食の人手不足を聞けば、高熱の病人まで飛び出して來て手傳ふといふやうに、そこには少しの利己的な考へも存在しない。一人の行動はすべて全隊に在る戰友たちの運命と繋つてをり、お互同士が助け合ひ、底ひ合つて眞に苦闘を共にしてゐるのである

★ ★ ★
次に、必需品物資調達の面から見たラベウルの將兵たちの生活は、徹頭徹尾、創意と工夫によつて成り立つてゐる。補給が斷たれ

た以上、生活必需品は如何にしても自分たちの手で生産されなければならない。そこで有り合せの材料により、兵の一人々々が、熱心に工夫し、研究し、自給の目的を達してゐるのである。既に日用品から醫藥の一部、さらには『ラベウル新聞』の如き文化機關まで現はれてゐるのである

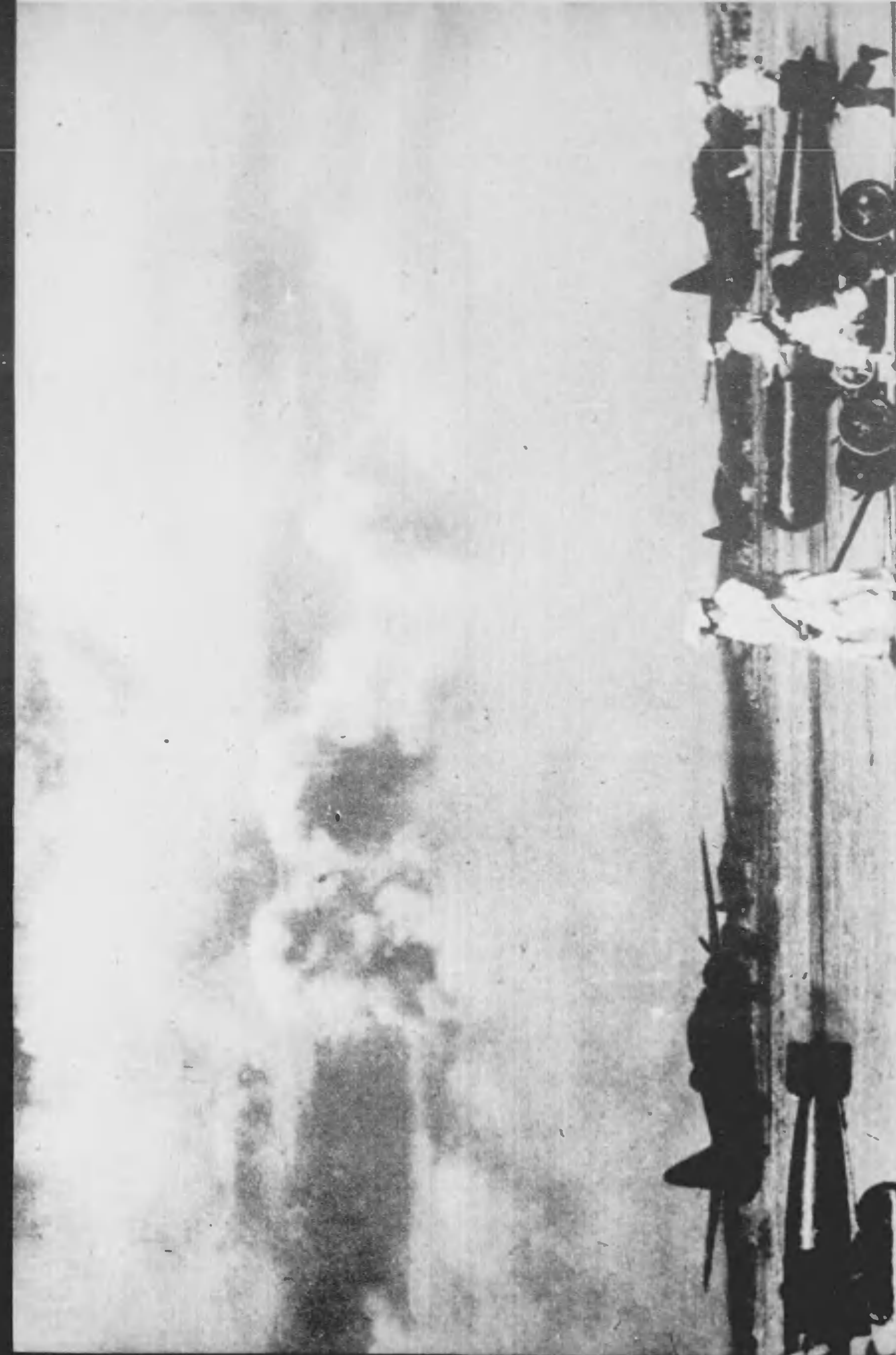
例へば、軍隊機織の發動機は直ちに修理改造されて工場に送られ、動力機械として新らしい生産に参加し、その機織はそれ／＼分解され、區別されて、生産資材としての重要な役割を果すとすいふやうに、如何なる物質であつても、創意と工夫によつて生活必需品と化してゆくのである。こゝには最早や代用品の概念はない。すべてが創造であり、新らしい生活形式が生れてゐるのである。ラベウルの將兵たちに呼ぶべき第三は、創造奮闘による結局打開である

南洋に孤立するラベウルにあつては、身邊に生起して來る事象の悉くが困難の環繞であり、しかも、これらの困難はすべて自力によつて解決されなければならないのである。密林の隙間にしても、洞窟工場の建設にしても、それらは殆んど不可能に近いと思はれる困難な作業を、將兵の一人々々が心血を打ち込みに苦闘によつて、見事に成し遂げてゐるのである。酷況逐次悪化し後方からの補給が殆んど絶望視せらるゝに至つたとき、流石の勇士も一種のわびしさを感じたのであつたが、しかし次ぎの瞬間には忽ち『ヨシやぞ』との烈々なる氣概を以て逞しく立ち直つた。その日から現地資材を以てする大小新兵器の創意工作が始められた。對戦車壕、對空挺部隊施設、その他敵撃滅のためのありとあらゆる兵器、ありとあらゆる設備が日と共にその強度を加へていつた。第一線の各陣地には、はじめ『必死敢闘』の陣地標語が掲げられてあつたが、本年夏から秋頃になると、それがいつの間にか、だん／＼と『明朗敢闘』の標語に書き改められてゆくのが微笑ましく思は出されるやうになつた

★ ★ ★
今日みるラベウルの明朗な自治體勢こそ、如何なる困難をも體當りをもつて打開してゆかるとする將兵の汗と泪の集積によつて結實したことを知らなければならない

今後、長期かつ複雑化する戦争生活を闘ひ抜くためには、ラベウルの將兵にみる如く、決死を乗り越えた明朗さがより適切な心構へとなつたのである

★ ★ ★
すなはち、戦争第四年目における闘は、『明朗敢闘』であるべきであらう。そしてわれ／＼はこの明朗敢闘によつてこそ、前線將兵の體當り精神と相俟つて、輝かしい勝利への大道を切り拓いてゆくことが出来るのである



この島嶼が敵空母を沈没させる。敵艦隊は出陣に先く出陣した。大東洋海軍報道部

南洋決戦

四度二十八年八月八日を迎へ

大本營海軍報道部

精進の大戦果

【帝國海軍は今八日未明、西太平洋に於て業業と戦闘状態に入りし。】

この歴史的な報章が國民の耳袋を打つたのは昭和十六年十二月八日午前六時であつた。報一度傳はるや、一億國民は驚愕の決意に挺身の奮ふを覺えたのであるが、爾來、連三年——太平洋戦がいよいよ決戦の段階に突入り、第四年目の開戦日を迎へんとして、感激いよいよ新なるを覺ゆるのである。

こゝに開戦以來の大東亞戦争を概観するにこれを三段階に區分し得よう。第一は我が軍が敵を東亞の各據點より驅逐し去つて、強固なる戦略的、經濟的據點の基礎を確立した期間であり、第二は敵が戦力の増強に躍起となり、物量に裏づけられて反撃に轉じ日本の戦時體制に侵襲し來つた期間であり、第三は比島作戦をめぐつて太平洋の潮流が激流せんとしてゐる現在の段階である。

まづ緒戦の戦局をみるに、帝國海軍においては、開戦頭ハवाई、マライ沖海戦に所有敵海上兵力並びに航空兵力の主力を殲滅して制空権の基礎を築いた。海上作戦にあつては、敵航空兵力を制滅し、海上兵力を殲滅して制空権を確保することが第一義であるが、わが軍は先制優勢をもつて、見事これに成功したのである。かくて制空権に基礎づけられて、わが陸海軍部隊の雄渾なる協同作戦は各地に展開され、グアム（占領二、一）、ニウエ（二、二五）、マニラ（二、一七、一、二）、シンガポール（二、一五）よりスマトラ、ボルネオ等の敵根據地、要點を逐次攻略し、

昭和十七年三月九日にはジャワの敵も無條件降伏するに至つた。この間ジャワ沖、バリ島沖、スラバヤ沖、ベタビヤ沖等の各海戦が生起し、敵海上兵力に徹底的な打撃を與へたのである。

敵米の總反攻

かくて戦前、敵が不敗を誇つた對日包圍の鐵鎖は、僅々四ヶ月にして寸断された。そこで我が方は戦略的には戦前の守勢より攻勢に轉じ、經濟的には被身領より自存自衛奮闘の基礎を確立したといひ得るのである。だが、わが方はかかる態勢で満足すべくもなかつた。すなはち、わが海軍は前記の有力な足場を確保すると共に、機を逸せず新たに進軍態勢をとつた。昭和十七年四月上旬を期して敢行されたインド洋作戦、六月上旬火蓋を切つた東太平洋作戦の新展開がこれである。

インド洋作戦の開始にして、アリューシャン列島並びにミッドウエー急襲による東太平洋作戦にして、必勝態勢を強化するも

のであるが、わが制空権はかくていよいよ増大強化されていつた。かかる作戦と前後して、海陸協同の下にわが作戦線はソロモン群島ガダルカナル島方面へも伸び、敵アメリカが最後の待みとする米海運線にすら脅威するの態勢を示しつゝあつた。

一方敵アメリカにあつては、眞珠灣に痛撃を受けを隣國から眞珠灣を忘れるなを合言葉として、國民總動員したのであるが、こゝに航空機の偉力を敗者の立場において遺憾した敵等は、航空機、航空母艦を中心とする戦力増強に必死となり、米海運線に脅威に瀕するや、これら増強された戦力を擁して反撃に出で來た。昭和十七年八月上旬のガダルカナル島への出陣がそれであつた。

爾後、敵はひたすら物量にものをいはずして進出を圖り、こゝにわが軍がガ島より轉進した昭和十八年二月以來といふもの、中部太平洋を祖ムニミヤツ軍、ニューギニア島を西進するマクアラシー軍、ソロモンを北上するヘルゼー軍が轉々並べて進軍、その間ソロモン海峽における敵の大掃蕩、フリーグンビル島沖、ギルバート諸島沖敵米の海、空戦等が展開され、敵は深刻な打撃を蒙つたのであるが、本年五月二十七日には、遂にニューギニア島方面の重要據點ビアク島に上陸、越えて六月十五日には中部太平洋の戦略要點サイパン島に上陸し來つた。

かくて、太平洋戦局は開戦以來、最重大なる様相を呈し、決戦の要素を内包するに至つたのである。

太平洋戦の新局面

勢ひに乗る敵は九月十五日ペリリュー島、モロカイ島に進出、こゝに比島作戦はいよいよ本格化するに至つたが、敵の狙ひが日本本土上南方激進地帯の總襲撃、及び日本本土攻撃の一大據點を奪取するにあるは疑なくもない。かくて敵は態勢を一舉に決定せんとするもの如く、十月十日南西諸島、十二日夜襲へと大軍出陣し來り、わが軍の猛進に遭つて

潰滅的打撃を受けた。だが彼等の既定方針は變更するべくもなく、同二十日には約三分師團を比島中部のレイテ島に上陸せしめ、二十四日より二十六日に亘つては、フィリピン沖海戦が生起して、敵等の態勢はいよいよ深刻なものとなつた。

だが、敵の戦力並びに戦意は些かも懈を許されない。既にレイテ島の敵兵力は、その後増強されて約七分師團に上り、彼等の攻防戦は日と共に烈化し、「太平洋戦の天王山」たるの様相を示してゐる。こゝに同方面制空権の確保は今後の戦局を左右する前掛要件なるをもつて、制空権の争奪戦は熾烈を極めつつある。しかして、消耗の補填、戦力の補充の強制良否が、直ちに戦局に影響するはいふまでもないところであつて、比島をめぐる現戦局は、一面「補給決戦」ともいひ得るのである。

ところで、敵は比島方面に有力なる航空基地を有せず、制空権の確保に任せざるに於ては補給もまた困難であつて、敵にとつて深刻な悩みであるに違ひない。これに對してわが方は、物量なほ彼に及ばずといへども、天與の地理的優位性を堅持し、敵を撃滅しつつあるのであるが、戦局は正に雄を創る大接戦である。

太平洋の潮流は逆流せんとしてゐる。いや、是が非でも逆流せしめねばならぬのだ。今こそ味方の弱點を補強、整備すると共に、敵の弱點に殺到して死命を制しなければならぬ。彼我戦線の決戦場が比島であるとすれば、こゝに決戦兵力を集中することが戦勝の鍵を握るものであり、比島に敵を撃滅することが直ちに日本本土防衛を意味することを銘記すべきである。

「億兆一心國家ノ總力ヲ擧ゲテ聖戦ノ目的ヲ達成スルニ邁進ナカラムコトヲ期セヨ」

一億國民、聖旨を奉讀し、今こそ各自の心に神風精銳の實戰を誓ひ、敵軍攻に絶死闘しよらではないか

海の手糧は出陣に必死必殺の闘意を燃やした電燈を点す

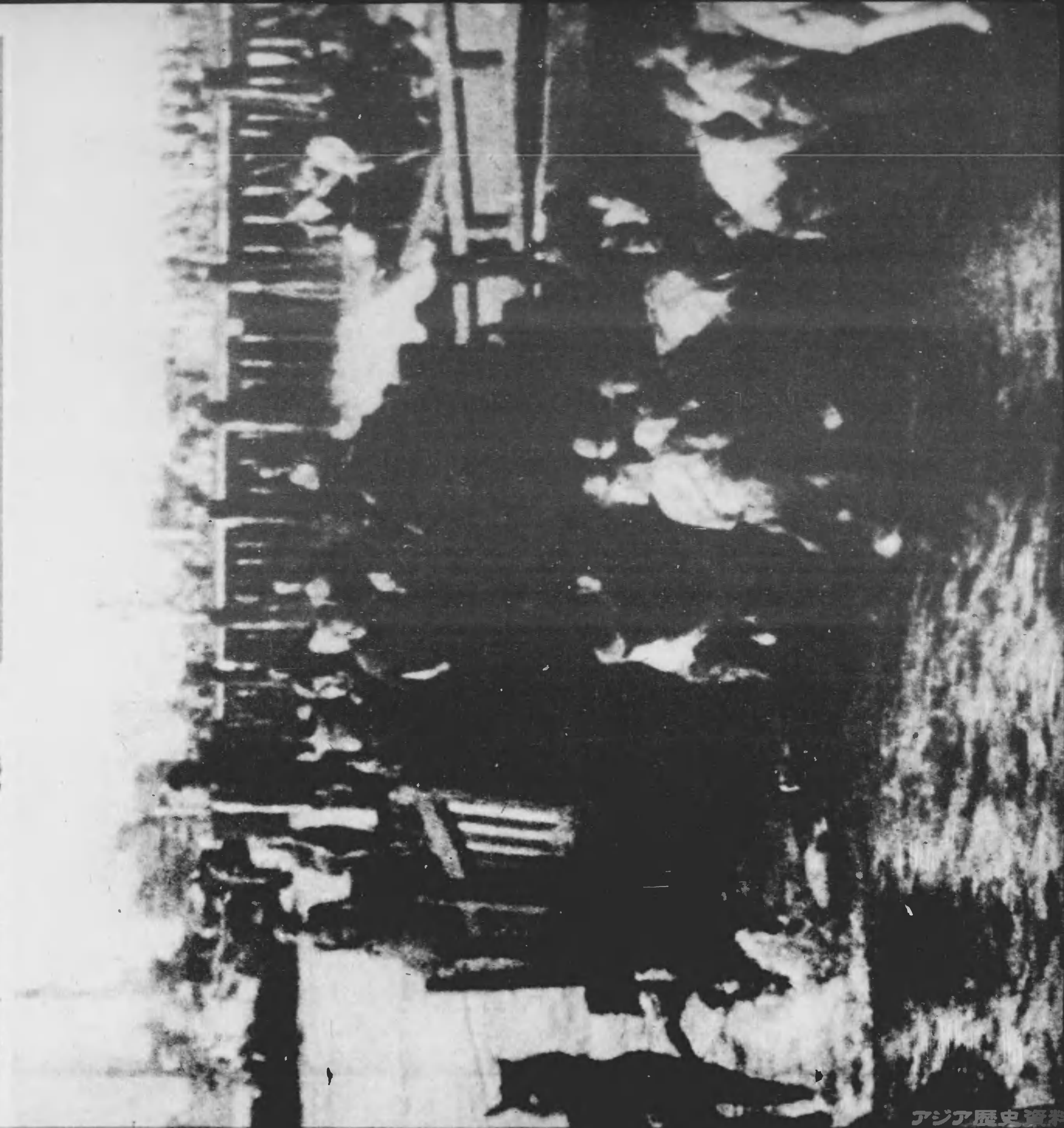


死の予兆

レイテは渡されぬ！
皇國の興廢にかゝはる
からだ。斷じてレイテ
は……特別攻撃隊の勇
士も、陸上で敵を邀へ
撃つ勇士も、たゞこの
ことのために、死生を
超越した闘魂を奔騰さ



◆ 出陣直前に神風特別攻撃隊勇士に利々の訓示を與へる編隊指揮官
撮影 日本映画社
レイテへ、レイテへ。わが新鋭部隊様々と上陸 ◆

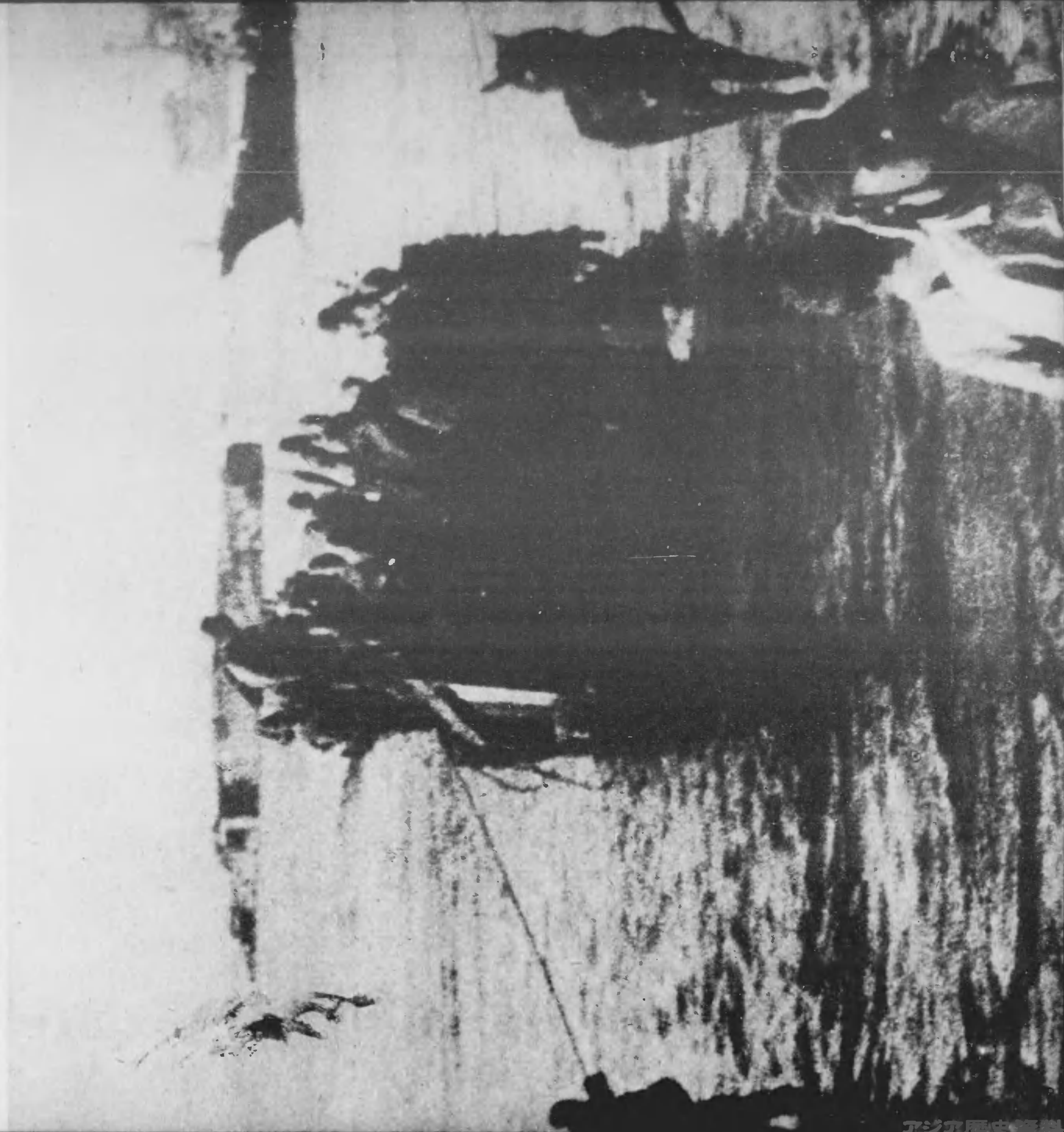


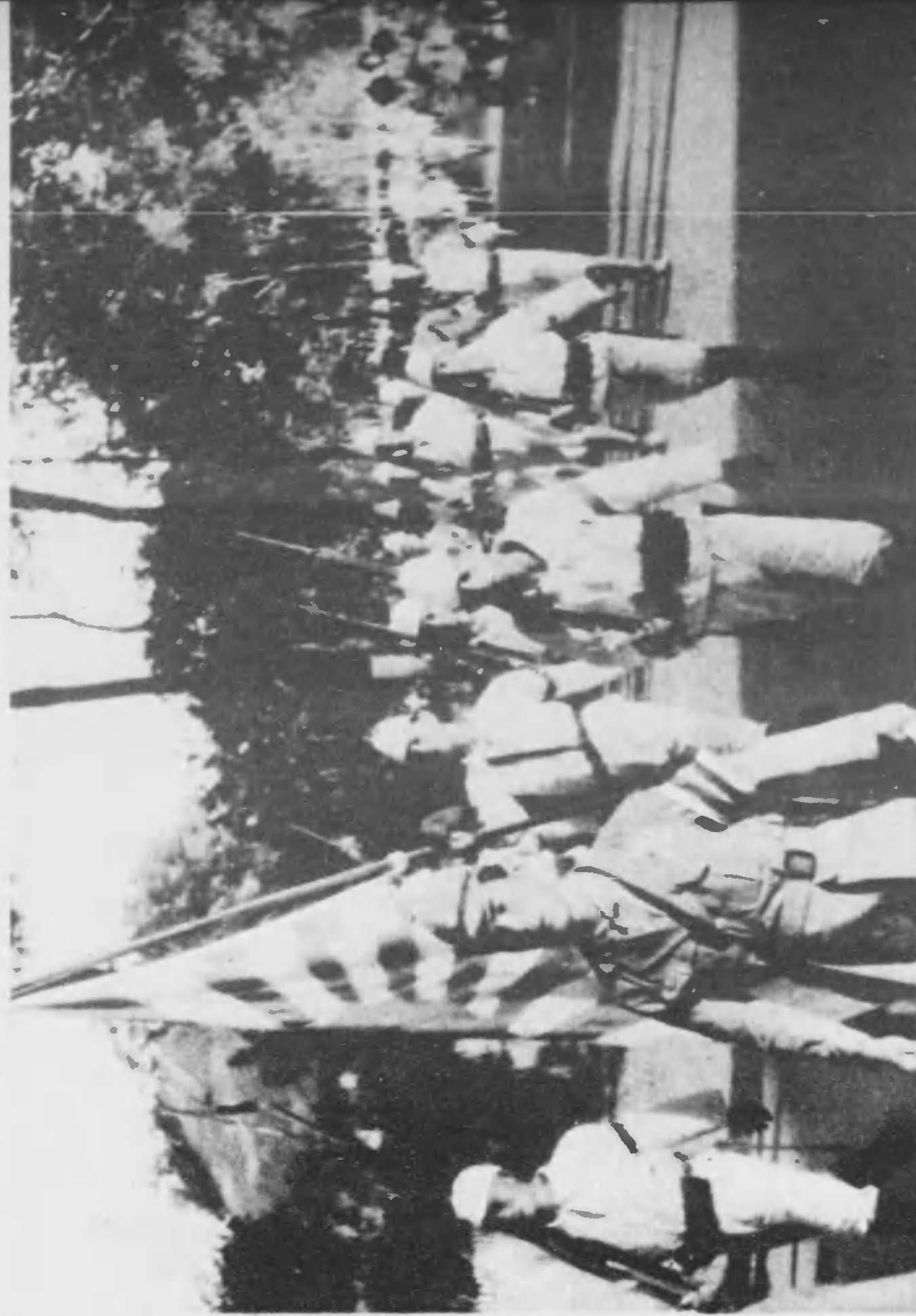


風雲 週刊

せてゐる。われらもこの闘魂に續かねばならぬ。飛行機を、兵器を船を、レイテに送るのだ。決戦々力をレイテに注がねばならぬ。さうだ。レイテは斷じて渡してはならぬ

- ◆ レイテ島のジャンタルを突進するわが勇士 撮影 本村雅直 山口
- ◆ わが子のやうに 陸軍特別攻撃隊の死闘を激闘する重水指揮官 比島 〇 長地





東亞の戦況

▶ あくまでも戦ひぬいて、東亞から米英を一掃することこそが、同志と共に關東の白雲山麓に眠る汪主席に對する何よりもの望みである。いま中國の國軍は悲しみのうちに勇氣一杯、敵へに敵へぬいてゐます。米式化されて完全に米英の手先となつた重慶軍にひまくらべ、東亞の傳統の身を殺して仁をなす精神をわが皇軍の訓練隊に學び、若き陣中博覧會委員長の下に集ふこれら精銳の頼むべき者が、同生共死の軍勢をまさぐと示してゐるではありませんか。

撮影 岡田通信社
 地の果までも敵を退ひ敵らす氣概をこめて、陣野に狂烈の練習をつける中國陸軍歩兵部隊



▶ 南方の各地では、大勢のインドネシアの若人が海員養成所や工員養成所などで技術を學んでから、海員や産業戦士となつて、天晴れ日本に協力してゐますが、かうした頼むべき若人の先頭に立つてゐるのが、海軍兵補學校の生徒です。わが無敵海軍の傳統を受けついで、立派な海のつはものになるのぞと、張切つて月月金金の猛訓練にいそしんでゐます。

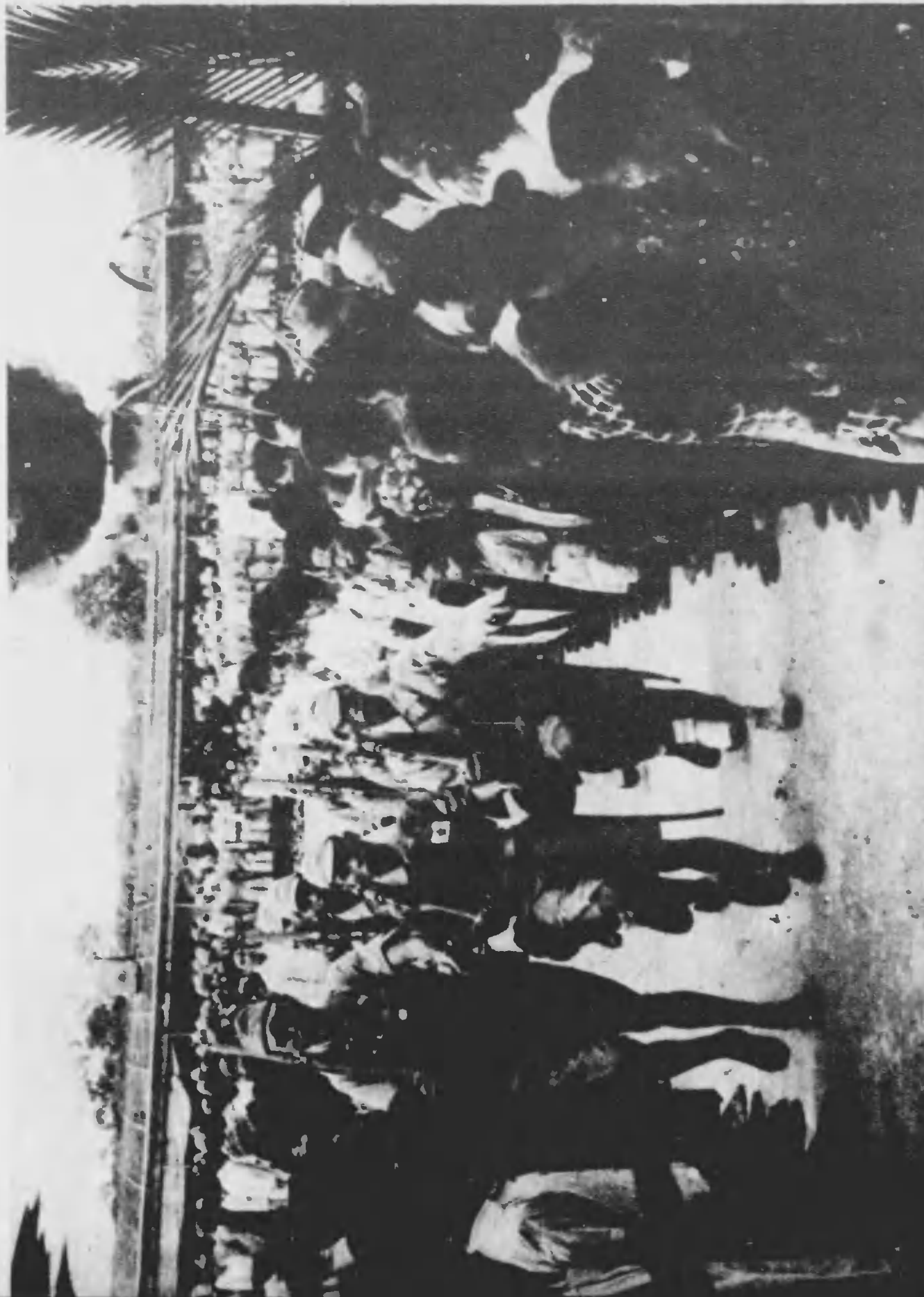
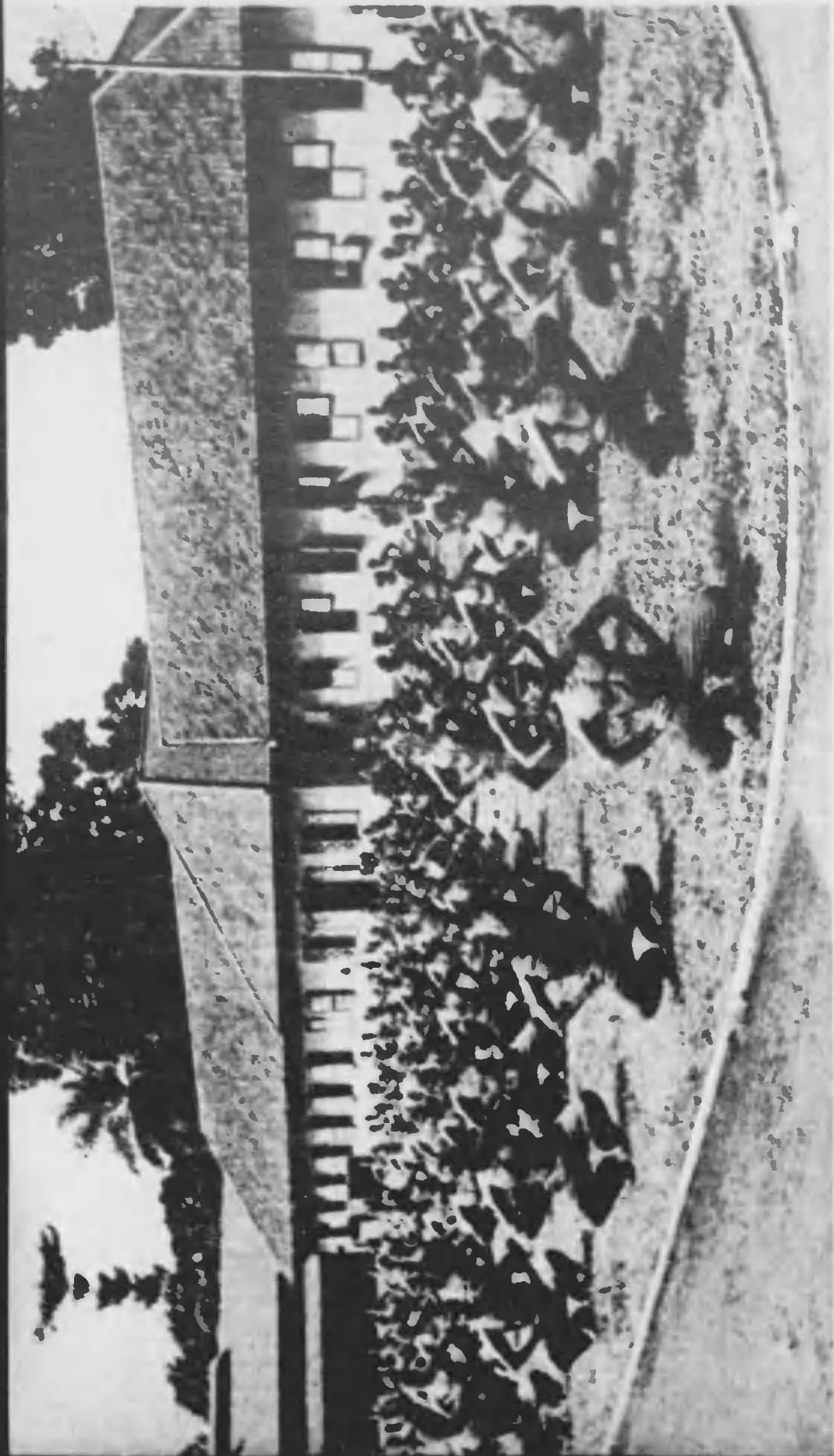
□ 聞く軍艦隊を先頭に編隊の行進 □
 「これが僕らの取つておきのうれしい顔です。僕らがどんなによろこんでゐるか、察して下さい」



『嘗てロシア兵のため敵寇のやうに辱使された滿洲の支那人は、無蓋車に積まれて、僅小な日本兵に監視されながら送られる無敵の口

ンドでは明治天皇の御眞影が家々の神棚に飾られ、日本を東亞の盟主と仰ぐ氣運は、獨立運動となつて燃え上り、速くエジプト、ペル

仰き、東亞の宿敵敵權へ體當りしてゐるのであつて、敵アメリカでさへ、東亞を今までのやうにわがものにならなかつたことを敵い



シア兵を自衛して、これまで受けてきた人種
的な差別待遇が理由のないことを知った」と
日露戦役の従軍記の中で一外人が書いてある
この賞物歌謡は、欧米列強に辱けられるに
任せてゐた東亞の諸民族を目覚めさせた。イ

シア、トルコにまで及んだ
大東亞戦争こそは、わが國にかけられた東
亞諸民族のこの信託に對して、わが國が雄渾
な事實をもつて答へたものである。さればこ
そ東亞の各國黨、諸民族もまた日本を頭首と

てゐる
戦争三年の收穫は、無数の軍が開動さ
れ戦力化されてゐることだけではない。東亞
十億の民心が我れに歸してゐるといふ事實、
これこそが何よりも勝利の礎なのだ

↑スマトラ軍當局では、スマトラ義勇軍が昨年暹羅以來、
切實訓練の甲斐あつて今や名譽ともに東亞防衛の一翼を
擔ふに足るといふので、義勇軍の中から心算ともに
優秀なるものを擧げて師団に任じてその指揮に當らせるこ
とになりました。茲には、任官式で、烈々郷土防衛を宣
誓する義勇少尉

↑獨立の公約と共に、シヤ防衛義勇軍の募集はさらに擴
りました。郷土の防衛は必ず自分らの手で、肩に擔
る決意も嬉しい
撮影 シヤ軍政監部宣傳部

◁そして今日朝を待つ一瞬の郷土訪問、出現への人々の
中々郷土兵は船着場から家々の行進です



北ボルネオのダイヤ族は勇気と情熱で叫んだ種族です
が、一度皇軍が上陸するや、すつかり敬服し、忠誠を誓
ふものが相出しました

現地軍でもいたく感涙し「それでは郷土の防衛をまか
せてみよう」と郷土兵の募集を始めたのでした

それから一年、嚴格なりちにも親切な皇軍勇士の教育
で、立派に一人前になつた彼らは、決戦いま米兵來らば
來れ、と大はりきりです

人情は大東亞かた一つです。久し振りに愛見を抱いての喜び
わが國の開業にひたるのも幾月かぞ。再び歸り來ん日
には必ず功を、と誓ひ合ふのも嬉しい



